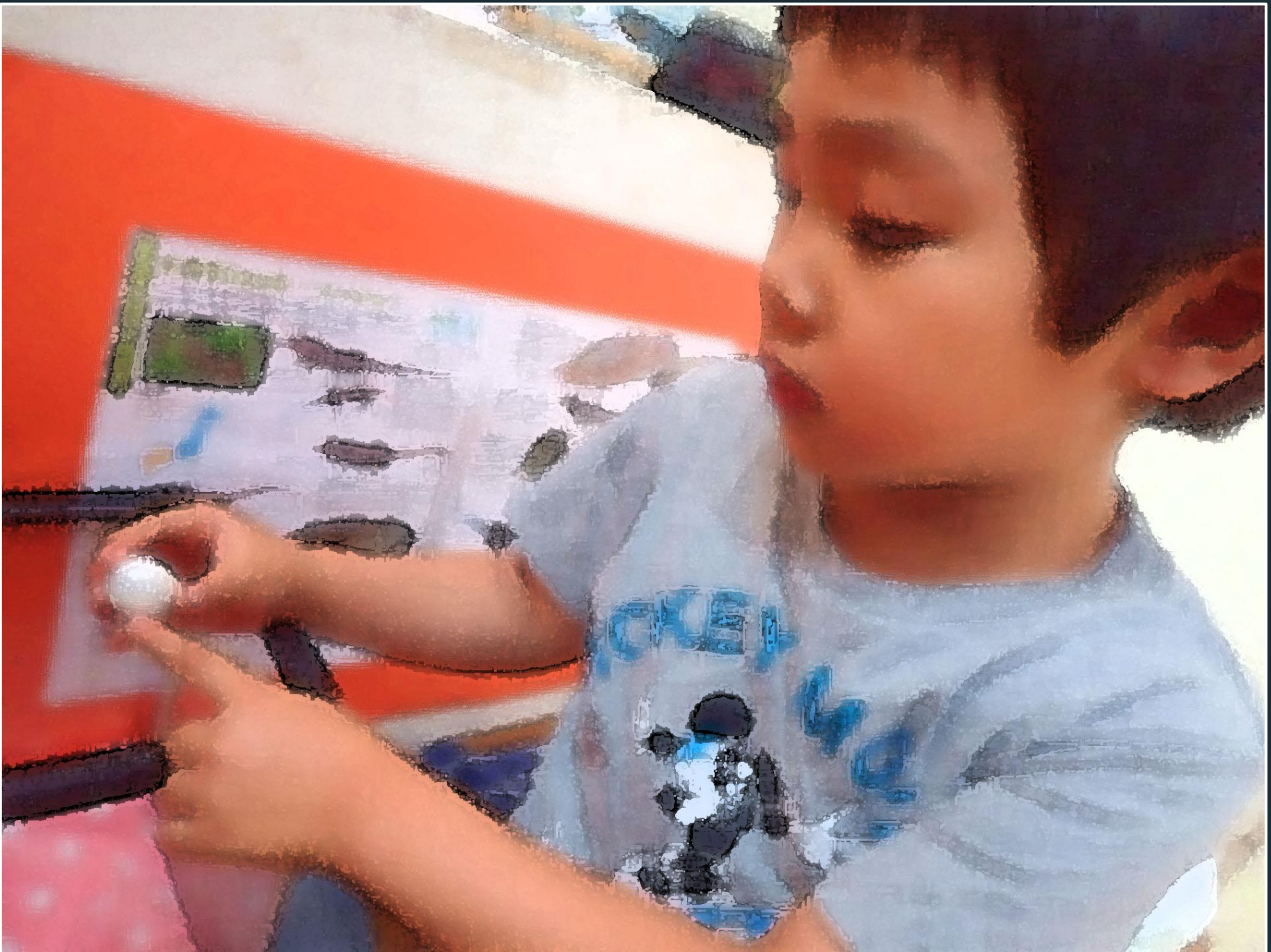




いづれものがたり

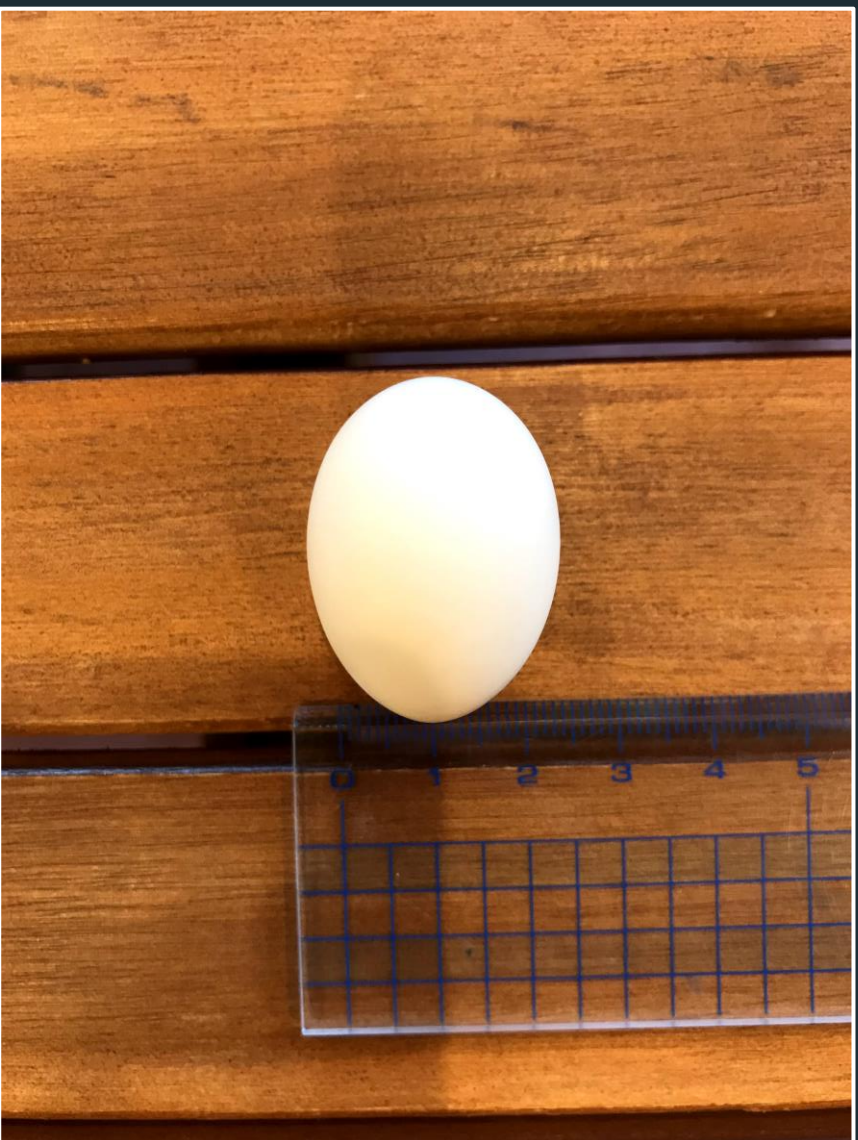
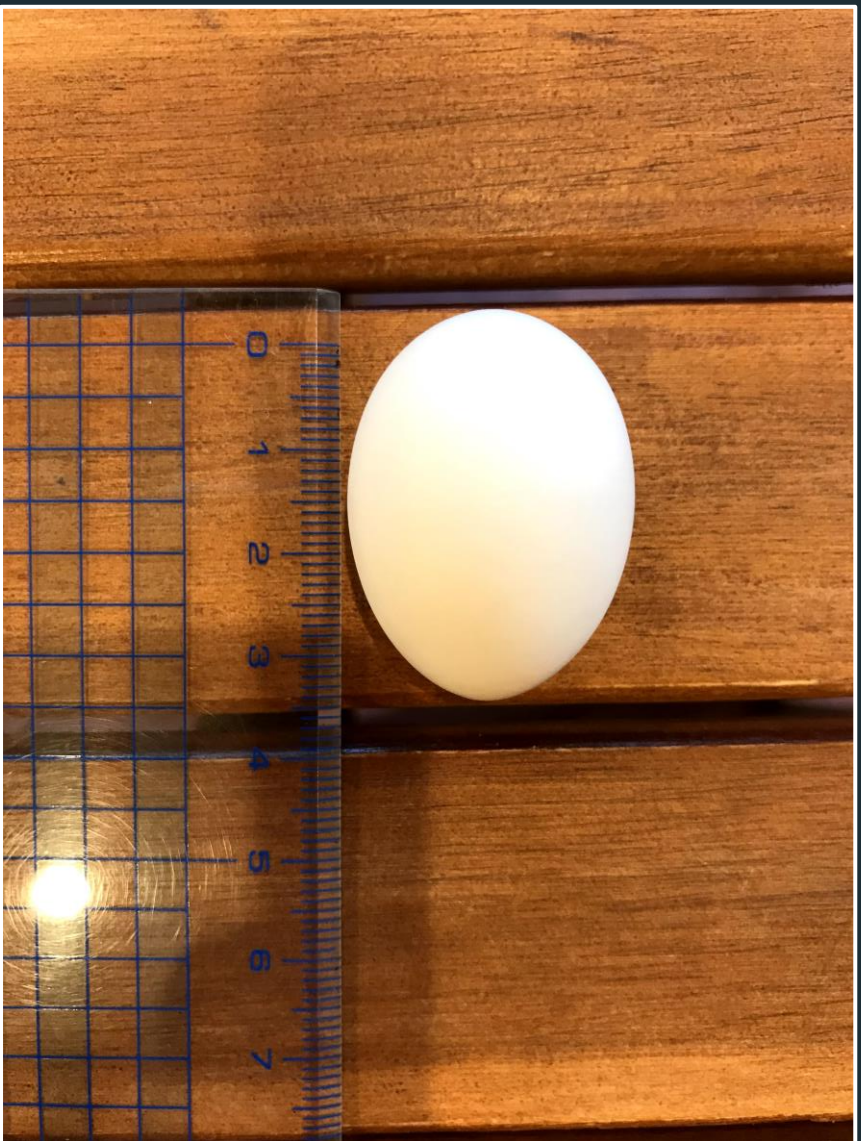


ある日、年長児が園庭で卵を拾ってきた。



さっそく、いごもたちは調べ始める。

もちろん、おとなも調べる。
こどもたちが何をしたいと言ってくるのか、
楽しみにしながら。





キジバトの卵だろう。有精卵らしい。

こどもたちは「育てたい」と言うかもしれない。そのための準備も進めておく。

「育てたい」と「食べたい」二つの意見。
話し合いの結果、育てることになった。

とても難しいことを、大人は知っている。



子どもたちは熱心に世話をしていたが、ある日、卵は割れてしまった。



お墓をつくって吊った。
大人も子どもも悲しみ、ショックを受けた。
でも、何人かの子どもが言った。

「育ってたよね」
大人はみんな驚いた。

ここまでの経緯は、写真記録で保護者にも
共有していた。

ある保護者から、鶏の有精卵の提供と、孵
卵器の貸与の申し出があった。





こどもたちは話し合い、もちろん育てることに
なった。

二十一日後、
かわいいヒヨコが7羽かえっ
た。





一番熱心にお世話をしたのは彼。
卵を「食べたい」と一番主張したのも彼。

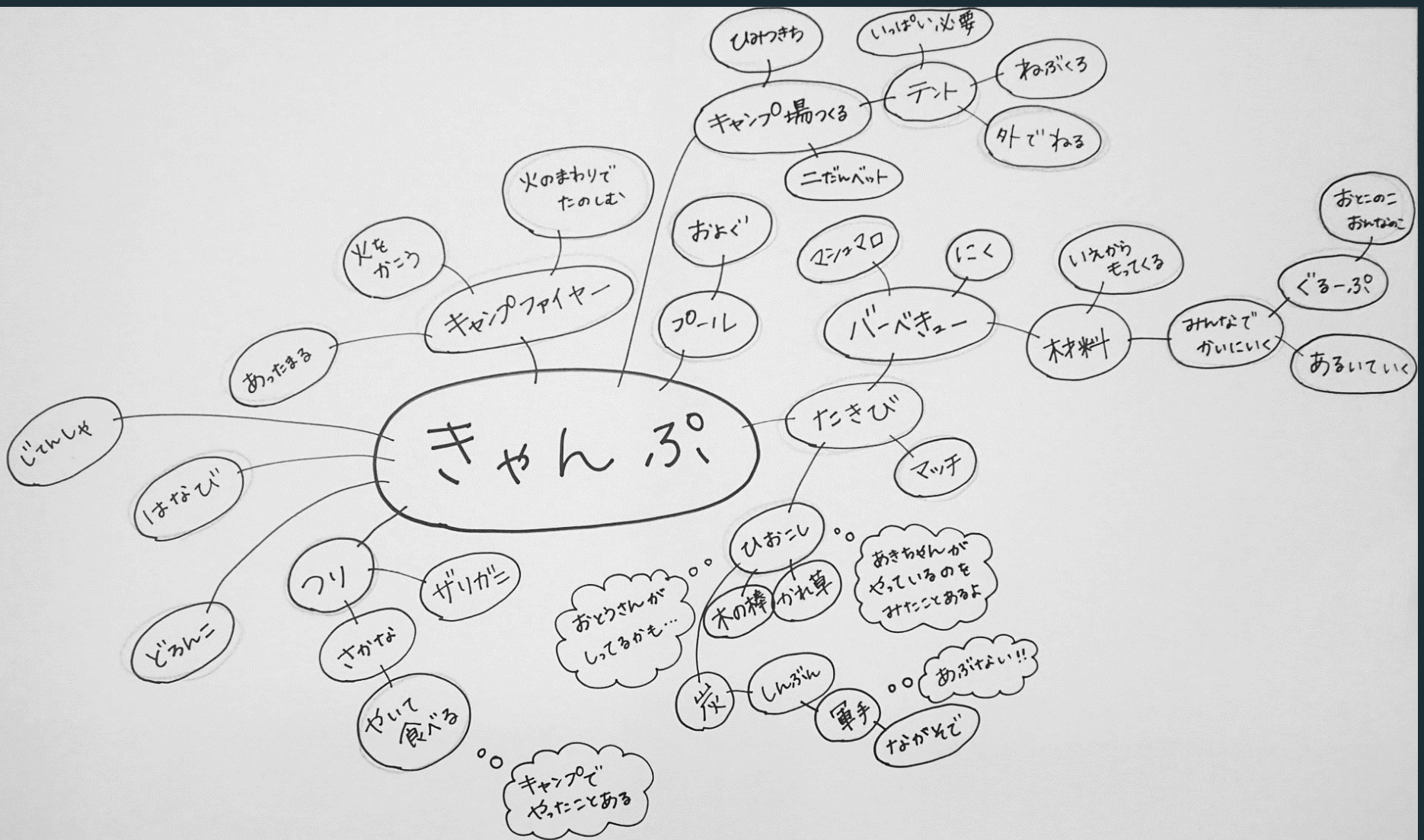


鶏は園のアイドルになっていった。

一方、春からずっと、たきびの再現遊びを繰り返しているグループもあった。



子どもたちで「やってみたいこと」を話し合っていると、『キャンプ』『たきび』『火おこし』の声が挙がった。



絵本で知った「きりもみ式火おこし」が人
気となるが、とても難しい。





用務員さんをお願いして、『舞いきり式火
おこし器』も作ってもらった。
煙は出るのだが、火はおこせなかった。

唯一成功したのは、虫めがね式。

園庭の杉の木の皮をはがし、繊維を手で揉みほぐして着火剤を作った。

これは普段から、たき火をしているから知っていた。





ついに、自分たちでおこした火で、たき火
をすることができた。

せっかくなので、この火はとっておくことにした。





何度も、たき火や野外炊事を楽しみ、キャンプファイヤーもできた。



その頃、すっかり大きく育った鶏は、卵を産むようになっていた。

卒園前には、自分たちがおこした火で、野外炊事を楽しんだ。

自分たちで卵から育てた鶏が産んだ卵で、目玉焼きやパンケーキを作った。





これはバームクーヘン。



最初に野鳥の卵を拾ったときから「食べた
い」と言っていた彼の念願が叶った。

こどもものがたり

こどものものがたり

それを語れる大人、
耳を傾けられる
大人を増やしたい



0歳児クラスの女の子。ミルク缶の玩具からボールを引っ張り出そうとしている。

失敗するたびに「どうして?」「本当に
ボールはあるのかな?」という様子で覗き
込む。





ようやく取り出せた。
保育者は、彼女の声や表情・仕草に一つひとつ丁寧に応答していた。

こどもものがたり

こどもの かたり

そこに真摯に向き合い、引き出し、
尊重できる大人を増やしたい



雨のウッドデッキ。ギリギリのところまで雨を感じようと腕を伸ばす。ちよっとした冒険。



ついに一人の女の子が雨の園庭に一步踏み出す。お友だちは歓声を挙げる。



雨や砂や水たまりの触感が心地よいのはもちろんのこと、越境し、禁じられた遊びの領域に踏み込んだ誇らしさも見えてくる。

いごもものがたり

こどもと ものの
かたりあい

それが生まれ、ひろがり、深まり、
つながる環境を増やしたい



野中こども園の池の様子を確認。
池の底にヘドロがたまっている。草がたく
さん生えているから、それをなくしてキレ
イにしたい。



スコップでヘドロをバケツ
にいねはこんで水を
たぐり往復したから大変だった

スコップでヘドロをバケツにいれてはこん
で、それをなん往復もしたから大変だった

園の先生と子どもたちもザリガニをたらい
へいどうさせたり、スコップでヘドロをい
れてはこんでくれて、たすかった

しごとは大勢でやったほうが、しごとは
かどった

協力してなにかをやるのはたいせつだなー
と思った

子どもにスマートエデュケーションを使っ
て、池について動画で説明

タブレットに説明の声を入れるときは緊張
した





6/26(月) 9:00~15:00
 ・ 鱒のつかみどり
 → 9:00~12:00
 ・ クローバー組の
 子どもたちと
 一緒に
 → 約40匹(5.5kgぐらい)



・ 子供たちのみまもり

・ 弱った鱒を
 目かけた

・ 鱒の蘇生
 エラのちかくで
 手であわをたて
 さんそをかくる

・ 元気になったー

六月二十六日、九時〜十五時
 鱒のつかみどり ↓ 九時〜十二時
 クローバー組の子どもたちと一緒に
 ↓ 約四十匹(五・五キロぐらい)
 子供たちのみまもり

弱っていた鱒を助けたかった
 鱒の蘇生
 エラのちかくで手であわをたて、さんそを
 おくる
 元気になったー

子供たちがつかみ取りした鱒をプール横で
さばいていっく♪

子供たちは、さばいているのを見て、
自分たちもやってみたいと言っていた

子供たちの声が苦手でおしえることができ
なかった。だけど

一人の子が「内蔵引っぱってみたい」と
言ってきたから「エラのまえのところから
ひっぱってみて」と言った。

子供たちもが
つかみ取りした
鱒をプール横で
さばいていっく♪



子供たちは、
さばいているのを
見ていて自分
たちもやって
みたいと言っ
ていた

子供たちの声が苦
でおしえることが
できずよかった

「だけど」→

一人の子が「内蔵
引っぱってみたい」
と言ってきたから
「エラのまえの
ところからひ
っぱってみて」
と言った。

3/11(A) 9:00~10:30

□□□



鱒についてのお話

大きな声での説明がたいへんだった

みんなしんけんにきいてくれていた

みんなしんけんにきいてくれていた

・ 鱒についてのお話

大きな声での説明がたいへんだった



魚クイズもやった

スケッチブックとスマートエデュケーション



魚クイズもやった

・スケッチブックとスマートエデュケーション

「この形、何に見える？」(静岡県)

子ども「きんぎょ」「たまご」「こころ」

「マス、何で釣れる？」

子ども「さかないしを釣る。それで釣れるこできる!!」

正解は子ども「よ、しー」「イーイッ」が正解



絵をまねしてかいて
くれた



魚のお話終り魚

魚のお話終り魚

絵をまねしてかいてくれた

いじごもものがたり

すべての こどもの
ものがたりを
すべての おとなが

それが、こどものまんなかを照らす
と信じて